

[A年] 降誕前第5主日(2024年11月24日)**【旧約聖書日課】ミカ書 2章12～13節**

- ¹² ヤコブよ、わたしはお前たちすべてを集め
イスラエルの残りの者を呼び寄せる。
わたしは彼らを羊のように囲いの中に
群れのように、牧場に導いてひとつにする。
彼らは人々と共にざわめく。
- ¹³ 打ち破る者が、彼らに先立って上ると
他の者も打ち破って、門を通り、外に出る。
彼らの王が彼らに先立って進み
主がその先頭に立たれる。

【使徒書日課】ヨハネの黙示録 19章11～16節

- ¹¹ そして、わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、白い馬が現れた。それに乗っている方は、「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる。¹² その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。¹³ また、血に染まった衣を身にまどっており、その名は「神の言葉」と呼ばれた。¹⁴ そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまどってこの方に従っていた。¹⁵ この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の搾り桶を踏むが、これには全能者である神の激しい怒りが込められている。¹⁶ この方の衣と腿のあたりには、「王の王、主の主」という名が記されていた。

【福音書日課】**マタイによる福音書 25章31～46節**

- ³¹ 「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。³² そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、

- ³³ 羊を右に、山羊を左に置く。³⁴ そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。
³⁵ お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、³⁶ 裸のときに着せ、病気のと看に見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』³⁷ すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。³⁸ いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。
³⁹ いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』⁴⁰ そこで、王は答える。『はつきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』
- ⁴¹ それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。⁴² お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渇いたときに飲ませず、⁴³ 旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のと看、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』⁴⁴ すると、彼らも答える。『主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渇いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』⁴⁵ そこで、王は答える。『はつきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』⁴⁶ こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。」

「聖書協会共同訳」(2018年版)読み比べ

ミカ書2章12～13節

- 12 ヤコブよ、私はあなたがたをことごとく集め
イスラエルの残りの者を必ず呼び集める。
私は彼を囲いの中の羊のように
牧場の群れのように一つにする。
それは人の騒ぎとなる。
- 13 打ち破る者が彼らに先立って上り
彼らも打ち破って門を通り、外に出る。
彼らの王は彼らの前を進み
主はその先頭に立たれる。

ヨハネの黙示録19章11～16節

11それから、私は天が開かれているのを見た。すると、白い馬が現れた。それに乗っている方は、「忠実」および「真実」と呼ばれ、正義をもって裁き、また戦われる。12その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠を戴き、この方には、自分のほかは誰も知らない名が記されていた。13この方は血染めの衣を身にまとい、その名は「神の言葉」と呼ばれた。14そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い上質の亜麻布を身にまとい、この方に従っていた。15この方の口からは、鋭い剣が出ている。諸国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。そして、この方はぶどう酒の搾り桶を踏む。そのぶどう酒には、全能者である神の怒りが込められている。16この方の衣と腿には、「王の王、主の主」という名が記されていた。

マタイによる福音書25章31～46節

31「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆連れて来るとき、その栄光の座に着く。32そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、33羊を右に、山羊を左に置く。34そうして、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、

私の父に祝福された人たち、天地創造の時からあなたがたのために用意されている国を受け継ぎなさい。35あなたがたは、私が飢えていたときに食べさせ、喉が渴いていたときに飲ませ、よそ者であったときに宿を貸し、36裸のときに着せ、病気のときに世話をし、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』37すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつ私たちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、喉が渴いておられるのを見て飲み物を差し上げたのでしょうか。38いつ、見知らぬ方であられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたのでしょうか。39いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたのでしょうか。』40そこで、王は答える。『よく言うておく。〔異本→私のきょうだいである〕この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである。』

41それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、私から離れ去り、悪魔とその使いたちに用意してある永遠の火に入れ。42あなたがたは、私が飢えていたときに食べさせず、喉が渴いたときに飲ませず、43よそ者であったときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、世話をしてくれなかったからだ。』44すると、彼らも答える。『主よ、いつ私たちは、あなたが飢えたり、渴いたり、よそ者であったり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お仕えしなかったのでしょうか。』45そこで、王は答える。『よく言うておく。この最も小さな者の一人にしなかったのは、すなわち、私にしなかったのである。』46こうして、この人たちは永遠の懲らしめを受け、正しい人たちは永遠の命に入るであろう。』

黙想のためのノート**次主日の教会暦と聖書日課**

・11月24日「降誕前第5主日」の日課主題は「王の職務」。伝統的には「終末主日」または「王であるキリストの主日」。教団行事暦では「収穫感謝日・謝恩日」。

・旧約聖書日課は、「ミカ書」から、イスラエルの復興を預言する箇所。使徒書日課は、「ヨハネの黙示録」から、白馬に乗った王の到来を告げる箇所。福音書日課は、「マタイによる福音書」から、終末の審判を物語る箇所。

旧約日課(ミカ2章より)

・「ミカ書」は、ユダヤ正典(ヘブライ語聖書)「後の預言者」の第四部「十二小預言者」の6番目に置かれた預言文書。歴史的「預言者イザヤ」とほぼ同じ時代、前8世紀の南王国ユダで三代の王に仕えた「宮廷預言者ミカ」の預言句集。「イザヤ書」と並行する句が見られるなど、両書、両預言者の直接的な関係が推認される。他方で、「イザヤ書」は「ユダとエルサレムについてみた幻」(イザ 1:1)とされるのに対して、「ミカ書」は「サマリアとエルサレムについて幻に見たもの」(ミカ 1:1)とされており、両預言者に与えられた使命は異なっていたことが推察される。

・「預言者ミカ」が活動した「ユダの王ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代」は前742～687年頃に相当し、北王国イスラエルは、イエフ王朝が崩壊した後、丁度始まっていたアッシリア王ティグラト・ピレセルによる軍事行動に巻き込まれて滅亡、南王国ユダも、アッシリアへの絶対的服従を余儀なくされていった時代。この過程で、まず、北王国イエフ王朝を支えていた北部各地の地方聖所祭司集団や地方豪族の一部がすでに、イエフ王朝が絶えた北王国サマリア王権を見限り南王国ユダ王家(エルサレム王権)に干渉するようになっていたと推認される。サマリア王権は、アッシリアに対抗するためにアラム・ダマスコ王権と同盟を組んで周辺諸国連合を目指し、南王国エルサレム王権アハズ王に対しても圧力をかけたが(シリア・エフライム戦争)、エルサレム王権はアッシリア王に助力を求めたため、結局サマリア王権(北王国イスラエル)の滅亡を招くことになった(前722年頃)。その後、南王国エルサレム王権は、アッシリア支配下となった北部各地の地方聖所集団や地方豪族からの強い干渉を受けるようになっていったと推認される。ヒゼキヤ王はこれに強く抵抗したが、アッシリア王センナケリブの軍事行動によりエルサレム包囲戦に追い込まれ、絶対的服従を余儀なくされたのである(前700年頃)。アハズ王やヒゼキヤ王の側近宮廷預言者として活動していたと考えられる「イザヤ」は、事実上アッシリアへの服従(面従腹背?)を説いているが、そこには北部地方聖所集団の意向も働いていたかもしれない。「ミカ」が「サマリアとエルサレムについて」告げるのも、つまりは両国王権に向けたきわめて政治的見地からである。

・日課箇所は、「イスラエルの復興」預言とされるが、上述の政治状況を背景とするならば、北王国イスラエルを支えてきた北部の地方聖所や地方豪族の干渉を南王国ユダ王権が受容し、新しい王国体制を構築するよう求める預言句として解釈されうる。「イザヤ」は、そのような政治判断に対して祭司出身の宮廷預言者として大義を与える預言を告げたが、「ミカ」もまた、別の立場から同様の預言を告げているのである。なお、「ミカ」は「モレシエトの人」(1:1)と呼ばれており、世襲的祭司の家系ではない、おそらくユダ・ダビデ王家に臣従してきた地方豪族の人であったと推認される。

使徒書日課(黙示録19章より)

・「ヨハネの黙示録」は、新約正典の最後に置かれた啓示文書。書名にもなっている本書冒頭1:1「黙示」は、ギリシア語「アポカリュプシス」の訳語で、福音書や「パウロ書簡集」では「啓示」と訳される語。歴史的には、「啓示」の中でも、天上の神的世界で展開されている異形の出来事が視覚的に啓示されるものを「黙示文学」と区別してきた。旧約では「エゼキエル書」や「ダニエル書」などの一部に見られ、バビロン捕囚期以降、ゾロアスター教を含むペルシアの宗教世界観の影響を受けて広がったとされる。「共観福音書」中で「小黙示録」と呼ばれる箇所(マタイ24章、マルコ13章、ルカ21章)も、同様の文学様式と解されている。本書の「僕ヨハネ」は、主の日の祈りの最中に天使によって天上に引き上げられて「黙示」を受けたと設定されているが、そこで目撃してきたとされる出来事の描写の多くは、旧約各書に典拠を見出されるもので、まったく新しい描写表現というものは少ない。

・本書には、「黙示」を受けた人物として「僕ヨハネ」の名が提示されている(1:1)。この「ヨハネ」は、「使徒ヨハネ」か、書簡を記した「長老ヨハネ」か、あるいは別のヨハネか、2世紀以来議論がされてきた。著者問題とその内容から、本書は長らく主流教会で「正典」として広く受け入れられずにきたが、西方教会(ローマ)ではキリスト教が帝国宗教となる過程のカルタゴ会議(397年)で正典と位置づけられた。他方、東方教会では10世紀ごろまで議論が続き、今日に至るまで主日礼拝(奉神礼)での朗読はされない。

・日課箇所は、「僕ヨハネ」が天上で目撃した出来事の結末近く、混乱した世界に新しい支配者が到来することを描く箇所で、その姿を「白い馬」に乗った方として描写する。「白(レウコス)」は「黙示録」が好んで用いる色で、新約25例中16例が本書の用例(特に「白い衣」の用例が多い)。「白い馬」は、すでに6:2で登場しているが、そこで馬に乗る者は「小羊」=「キリスト」と区別されている。他方、日課箇所の「白い馬」に乗る者は、「キリスト」を指して言われていると解されてきた。この「白い馬」に乗る者に「王冠」が載せられ、「王の王、主の主」と称されることに基づいて、「王としてのキリスト」というキリスト論が展開されてきた。「王の王、主の主」は、1テモテ6:15にも見られる。

福音書日課(マタイ 25 章より)

・日課箇所は、「終末に関する教え」の一部であるが、背景にあるのは当時のユダヤ教で広く信じられていた「終末の復活と最後の審判」の教説。「パウロ書簡集」にもしばしばこの教説に基づいた記述が見られ(ロマ 14:10~11、Ⅱコリ 5:10 など)、弟子たちの初期教会では、この教説が当然のごとく前提とされていたと推認される。日課箇所の独自性は、その「審判」で問われる事柄を、本福音書が一貫して焦点を当てる「最も小さい者」への対応に集約している点。「最も小さい者」は、特定の一人ではなく、さまざまな場面・状況の中に存在する「弱者」として提示され、同時にそれらの「最も小さい者の一人」が「わたし」=「キリスト」と同一視されることで、あらゆる場面での他者への振る舞いが「キリスト」への振る舞いとして解されるという、キリスト者の宗教実践の原則が示されている。

・日課箇所は、24 章で展開される「小黙示録」の付論として、「十人のおとめのたとえ」および「タラントのたとえ」と共に記されている。これらに共通する主張は、「小黙示録」で主張される「目を覚ましていなさい」という勧めで、焦点は死後ではなく現世の今にある。

来週の誕生日 (11 月 24 日~30 日)

主日礼拝の讚美歌から

- ・21-16「われらの主こそは」(= I 15「我らのみかみは」)は、19 世紀英国の文筆家 J.コンダーの詩集の中から讚美歌に採用された歌詞で、黙 19:6 に基づく。曲は、18 世紀英国の長老派牧師レーエフ・ハリソンによる聖歌集に収められたものの一つ。
- ・21-226「輝く日を仰ぐとき」(= Ⅱ 161)は、スウェーデンの伝道者ボーベリが作詞した歌詞をスウェーデン民謡の曲で歌うようになったもの。19 世紀終わりごろのスウェーデン語讚美歌集で発表された後、ドイツ語、ロシア語に訳されて歌われるようになっていたものを、英国人宣教師がウクライナで聞いて英訳して紹介した。1950 年代にビリー・グラハムが伝道集会で用いるようになって有名になり、日本には中田羽後が紹介して広く歌われるようになった。
- ・21-563「ここに私はいます」は、讚美歌創作運動の第一人者ブライアン・レンの作詞。スコットランドの社会福祉施設の委嘱によりクリスマス礼拝のために作詞。作曲のダニエル・C・デーモンは米国メソジスト派牧師で、ジャズ・ピアニストとしても活動中。
- ・21-567「ナルドの香油」(= I 391「ナルドの壺」)は、19-20 世紀米国の会衆派牧師パーカーの作詞作曲。パーカーが説教後の讚美歌として自作。20 世紀後半以降の英語讚美歌では採用されていない。

21-16「われらの主こそは」

The Lord is King! Lift Up Thy Voice

1. The Lord is King! lift up thy voice, / O earth, and all ye heavens, rejoice; / from world to world the joy shall ring, / 'The Lord omnipotent is King!'

2. The Lord is King! who then shall dare / resist his will, distrust his care, / or murmur at his wise decrees, / or doubt his royal promises?
3. He reigns! ye saints, exalt your strains; / your God is King, your Father reigns; / and he is at the Father's side, / the Man of love, the Crucified.
4. Alike pervaded by his eye / all parts of his dominion lie: / this world of ours and worlds unseen, / and thin the boundary between!
5. One Lord one empire all secures; / he reigns, and life and death are yours; / through earth and heaven one song shall ring, / 'The Lord omnipotent is King!'

21-226「輝く日を仰ぐとき」

O Store Gud

English tr. by Stuart K. Hine

1. O Lord my God, When I in awesome wonder / Consider all The works Thy Hand hath made, / I see the stars, I hear the mighty thunder, / Thy pow'r throughout / The universe displayed;

Refrain:

Then sings my soul, / My Saviour God, to Thee, / How great Thou art! How great Thou art!

2. When through the woods / And forest glades I wander / I hear the birds Sing sweetly in the trees; / When I look down / From lofty mountain grandeur / And hear the brook / And feel the gentle breeze;
3. But when I think / That God, his Son not sparing, / Sent Him to die, I scarce can take it in, / That on the cross My burden gladly bearing / He bled and died To take away my sin;
4. When Christ shall come, / With shouts of acclamation, / And take me home, / What joy shall fill my heart! / Then I shall bow In humble adoration / And there proclaim, / "My God, how great Thou art!"

21-563「ここに私はいます」

Here Am I

1. Here am I, / where underneath the bridges / of our winter cities / homeless people sleep. / Here am I, / where in decaying houses / little children shiver, / crying at the cold. / Where are you?
2. Here am I, / with people in the line-up, / anxious for a handout, / aching for a job. / Here am I, / where pensioners and strikers / sing and march together, / wanting something new. / Where are you?
3. Here am I, / where two or three are gathered, / ready to be altered, / sharing wine and bread. / Here am I, / where those who hear the preaching / change their way of living, / find the way to life. / Where are you?

21-567「ナルドの香油」

Master, No Offering

1. Master, no offering, / Costly and sweet, / May we, like Magdalene, / Lay at Thy feet; / Yet may love's incense rise, / Sweeter than sacrifice, / Dear Lord, to Thee. / Dear Lord, to Thee.
2. Daily our lives would show / Weakness made strong, / Toilsome and gloomy ways / Brightened with song; / Some deeds of kindness done, / Some souls by patience won, / Dear Lord, to Thee. / Dear Lord, to Thee.
3. Some word of hope, for hearts / Burdened with fears, / Some balm of peace, for eyes / Blinded with tears, / Some dews of mercy shed, / Some wayward footstep led, / Dear Lord, to Thee. / Dear Lord, to Thee.
4. Thus, in thy service, Lord, / Till eventide / Closes the day of life, / May we abide! / And when earth's labors cease, / Bid us depart in peace, / Dear Lord, to Thee. / Dear Lord, to Thee.